

甲賀地方で見られる魚

みなくち子どもの森
滋賀県甲賀市水口町北内貴10
TEL0748-63-6712
みなくち子どもの森

() 内は滋賀県で大切にすべき野生動物2005年版（滋賀県レッドデータブック）の指標です。絶滅の危険性が高い順は絶滅危惧種-絶滅危機増大種-希少種となっています。



アマゴ (サケ科)

マスの仲間で、背中の後方に小さなあぶらひれと呼ばれるひれがあります。体に小さな赤い点があるのが特徴です。野洲川上流の冷たくきれいな水にすんでいます。体長 最大で25cm

アユ (アユ科)

アユは川で産卵し、卵からかえった稚魚は海や湖へ下って冬をこし、春には5~6cmに成長して川をさかのぼります。川では石についた藻類を主なえさにしています。えらぶたの後ろの黄色い紋が特徴です。体長 最大で27cm

オイカワ (コイ科)

ハヤと呼ばれる魚のひとつで、体は銀色をしています。オスは繁殖期になると、緑色と赤色のしまが現れます。川で見られる小さな魚はオイカワかカワムツの稚魚であることが多いです。体長 最大で13cm

ヌマムツ (コイ科)

ハヤと呼ばれる魚のひとつで、オイカワに似ていますが、体の横に青黒い線が一本あります。ヌマムツはカワムツと大変よく似ており、最近まで同じ種類と思われていました。体長 最大で13cm。

カワムツ (コイ科)

ヌマムツとカワムツを見分ける方法
ヌマ: カワより下流にすむ。胸びれと腹びれの前が赤い。尻びれと尾びれが黄色い。
カワ: ヌマより上流にすむ。胸びれと腹びれの前が赤くない。全てのひれが黄色い。

アブラハヤ (コイ科)

オイカワやカワムツと共にハヤと呼ばれる魚のひとつです。川の上流の冷たい水の中にすんでいます。ウロコが細かいのが特徴のひとつです。体長 最大で12cm

タカラハヤ (コイ科)

アブラハヤに似ていますが、色が少し黒く、水の冷たい上流の谷川にすんでいます。アブラハヤより、尾びれのつけねが太いのも見分けるポイントになります。体長 最大で8cm



タモロコ (コイ科)

体がぐるぐるしていて、1対の口ひげがあります。体の横にはっきりしない数本の黒いすじがあるように見えます。平地の川や用水路にすんでいます。

体長 最大で8cm

イトモロコ (コイ科) (絶滅危機増大種)

野洲川やその支流の中流から下流にすんでいます。河川改修などですみかの環境が悪化して数が少くなり、姿を見ることが難しくなってしまいました。1対の口ひげがあります。体長 最大で8cm

ムギツク (コイ科) (希少種)

横から見ると口先がとがった形をし、体の横に黒い一本のすじがあるスマートな魚です。流れのゆるやかな水草の多い川にすんでいます。体長 最大で13cm

モツゴ (コイ科) (希少種)

口が小さく細長い魚で、ムギツクに似ていますが、体の横にムギツクほどはっきりした黒いすじがありません。体長 最大で7cm

カワバタモロコ (コイ科) (絶滅危惧種)

水草のしげった平地の池や小川にすんでいます。自然の豊かな小川や池がへり、この魚は非常に少なくなってしまいました。ブルーギルやブラックバスが大敵です。体長 最大で5cm。

ズナガニゴイ (コイ科) (絶滅危機増大種)

1対の口ひげがあり、カマツカに似ていますが、頭がとがっています。カマツカのように水底を泳ぐことは少なく、県内では野洲川とその支流以外ではほとんど見られません。体長 最大で18cm

カマツカ (コイ科)

体は茶色っぽい色で、黒いまだらもようがあり、砂や石の多い川や湖の底にすんでいます。口は下向きで、1対の長い口ひげがあります。体長 最大で18cm

ギンブナ (コイ科)

成長すると25cmぐらいになり、全国の池や沼、流れのゆるやかな川の中流や下流にすんでいます。コイとちがって口ひげがありません。体長 最大で20cm



コイ (コイ科) 野生型は(希少種)

成長すると大きくなる魚で、2本の口ひげがあります。のどの奥に咽頭歯という歯があり、貝をかみくだいて食べます。体長 最大で100cm



メダカ (メダカ科) (絶滅危機増大種)

水草のしげる小川や平地の池、沼にすむ小型魚です。最近では自然の豊かな小川がなくなり、数が減ってしまいました。体長 最大で4cm



ナマズ (ナマズ科)

池や流れのゆるい川にすんでいます。ひげが2対、小さな背びれが1枚あるのが特徴です。夜行性で、魚やカエル、ザリガニなどを食べます。体長 最大で60cm



ギギ (ギギ科) (絶滅危機増大種)

ナマズに似ていますが、ひげが8本あることや背びれが大きいことで区別できます。自然が残っている砂や石底の川や水路にすんでいます。胸びれに棘があり刺されると痛いので注意。体長 最大で25cm



アカザ (コイ科) (希少種)

全身オレンジ色をした魚なので他の魚と簡単に区別できます。水のきれいな川の上流から中流にすんでいます。胸びれに棘があるので注意が必要です。

体長 最大で8cm



カワヨシノボリ (ハゼ科)

川底にすむ魚で、背びれが2枚あり、胸びれが2枚くっついて吸盤になっています。急な流れの川でも、石に吸いつくことができるので、流されることはあります。ゴリとも呼ばれています。体長 最大で5cm



ドンコ (ハゼ科)

川底にすむ魚で、背びれが2枚あります。上から見ると、背中に黄土色のひし形のもようがあります。魚やザリガニなどを食べています。体長 最大で23cm



カジカ (カジカ科)

カジカもハゼの仲間で、2枚の背びれがあります。ドンコに似ていますが、前の背びれが大きいことや、水が冷たくてきれいな上流の谷川にしかいないので区別することができます。体長 最大で13cm



ウナギ (ウナギ科)

野洲川の中流から下流にすんでいますが、数は多くありません。ウナギは深海で産卵します。野洲川のウナギは、海からダムをのりこえてやってくるのでしょうか。体長 最大で100cm



ドジョウ (ドジョウ科)

10本のくちひげと、ユーモラスな細長い体で昔から親しまれてきた魚です。小川や田んぼにすんでいますが、環境の悪化で減少しています。体長 最大で10cm



ホトケドジョウ (ドジョウ科) (絶滅危機増大種)

きれいな冷たい水の流れる小川にすんでいます。ドジョウにしては体が短く、ナマズとドジョウの間のような体型をしています。体長 最大で5cm



シマドジョウ (ドジョウ科)

きれいな冷たい水の川にすんでいます。このような環境の川が少なくなって、甲賀地域ではアジメドジョウよりも少なくなっています。体長 最大で12cm



アジメドジョウ (ドジョウ科) (希少種)

水の冷たい川の上流にすむんでいます。やや流れのゆるやかな石や砂の川底で生活し、石の表面についた藻類や小さな虫を食べています。体長 最大で10cm



オオクチバス (サンフィッシュ科)(外来魚)

ブラックバスとも呼ばれています。アメリカからついで用の魚として輸入され、芦ノ湖へ放流されました。芦ノ湖からの持ち出しが禁止されていたのですが、いつのまにか放流されて広がり、昔から日本にいた魚を食いあらしています。体長 最大で50cm



ブルーギル (サンフィッシュ科)(外来魚)

アメリカから日本に持ち込まれた魚で、えらぶたの後ろに青黒い紋があります。繁殖力がつよく、他の魚の卵を食べるので、この魚が池に入ると他の魚がいなくなってしまいます。体長 最大で20cm



日本の魚を食いあらす外来魚

琵琶湖にもぐってみると、外来魚のオオクチバスやブルーギルばかりが目につきます。昔から琵琶湖に住すんでいたタナゴやモロコなどの魚がほとんどなくなってしまいました。もしこれが、水中の魚ではなく、目につきやすい鳥の世界で起こったとしたらどうでしょう。スズメやウグイスなど日本の鳥が食いあられ、だれかが放した外国の鳥ばかりが目立つようになったとしたら。

甲賀地方のため池にも、オオクチバスやブルーギルなどの外来魚がふえています。これらの魚が入ってくるとそれまですんでいた日本の魚が食べつくされて絶滅してしまいます。絶対に放さないようにしてください。

琵琶湖を泳ぎ回るブルーギルとブラックバスの群れ